

熊本地震より早 4 年。復興でご苦労が多い中、今回ご報告のあったプロジェクトの推進役を果たされた熊本まちなみトラスト、そして熊本市、被災建造物文化遺産所有者の皆さん他多くの地域社会の皆さんが力を合わされ、5 件すべての修復が無事終了されましたことをとても嬉しく思います。WMF と協力パートナーのフリーマン財団を代表して心より敬意を表します。

WMF は今年創立 55 周年を迎えます。日本での活動はまだそのうちの 18 年ですが、災害被災文化遺産復旧プロジェクトは熊本が 4 番目になります。他の 3 件は気仙沼、雄勝、佐原とともに 2011 年の東日本大震災によるものです。気仙沼は 2012 年よりいまだに修復作業を続けておりますが、いずれにおいても今回熊本で見られたような核となる地元グループが復旧活動をけん引し、行政を含めた広い地域社会の参加によってプロジェクトでの一定の成果をおさめております。

今回の新町・古町被災文化財復旧プロジェクトの対象地域である坪井川沿いの地区は、熊本城下町の大きな特徴の一つである建築の多様性が残るところです。城下町全体では被災前に約 350 件を数えていたそれら多様な建造物文化遺産が今では約 180 件になっているとお聞きしました。私たちは 3 年前に城下町全体の復興再生、という高邁な理想目標をたて、今回のプロジェクトをパイロットとして立ち上げました。そのプロジェクトも一定の成果を上げ、保存活動に欠かせないローカル・スチュワードシップが確立された今、現在残っている 180 件を大切に思い、何年かかろうとも熊本城下町の再生・復興に向けこれからも共に頑張っていこうではありませんか。WMF もこれからも皆さんと共にできることから頑張っていきたいと思います。本日は WMF に対する感謝のお言葉も皆さんから頂き、本当にありがとうございました。

令和 2 年 3 月 21 日

ワールド・モニュメント財団 日本代表

稲垣 光彦